

そほう

組

報

# かながわ

No.16 2003.3.15

## 身边なお寺の情報誌

### ネパール梵本『無量寿経』

(一) 樟 本



(一) 樟 本

(二) 光寿会本 A



(二) 光寿会本 A

(三) 光寿会本 C

(龍谷大学図書館所蔵)

(一) 樟 本  
4.3×29.4cm(86枚)

(二) 光寿会本 A  
8.7×24.6cm(65枚)

(三) 光寿会本 C  
9.9×26.5cm(64枚)

大谷探検隊将来品中には、  
30点以上のサンスクリット  
仏典(ネパール写本)があつ  
たが、現在、龍谷大学図書  
館に所蔵されているものは、  
21点にすぎない。

4種の梵本『無量寿経』写  
本中、樟本は、樟亮三郎博  
士が大谷光瑞師の依頼によ  
り将来されたもので、現存  
する『無量寿経』のサンス  
クリット写本中では最古の  
もの(12世紀)の一つである。

# 阿弥陀さまに出遇う大切なご縁

最願寺住職 藤江 義昭

それは、子ども会（当寺では毎月第二土曜日開催）に通う小学六年生の  
おばあちゃんの葬儀での事。お勤めを終えた私は、子どもの心に葬儀がどう  
のようになつたかと思い、

「お葬式どうだつた？」と聞いてみました。

するとその子は私の顔を見上げて、しかめつ面。

「先生、長いよ、お経はわからないし、足はしびれる」

この答え予想はしていたが、そう素直に言われると愕然。しかし、私が子どもの時にも同じ事を感じていました。おそらく皆さまも同じ思いをした事があるのでないでしょうか。

そして、月が変わつての子ども会。葬儀に参列した事がある子どもがどれくらいいるのかと思い。

「お葬式に出たことある人」と尋ねてみると、半数の子が手を上げました。そこで「どんな感じだつた」と聞くと、答えは皆同じ

「あれつて長いよね」

そこで何故、葬儀があるのかという話をしました。

「人間として命をいただくこと有難いことだよね、そして、人間としての命を終わつて往く事、一大事だよね」

子ども達もわかるようで大きく頷いていました。

「なくなられたおばあちゃんは、人間としての命を終えられて、阿弥陀さまのお淨土に生まれて往かれ、今度はそこから阿弥陀さまとご一緒に私達の命を見つめ願いをかけてくださつてているのですよ」

そこで「みんな毎日の生活の中で命をみつめることありますか」と聞くと声をそろえて「そんなこと、ほとんどない」

「言い換えるべ、おばあちゃんは自らの命をもつて、私たちにひとりひとりの命がかけがえのない命であることを教えると共に、阿弥陀さまのはたらきの不思議さ尊さを示してくださつてしているのです」

また、「みんなは毎日の生活のなかで阿弥陀さまの前に座る時間、どちらいある」と聞くと、またまた声をそろえ

「あまりない」

「私達は自ら進んで阿弥陀さまにお参りする事、とても難しいことだよね。そんな私達に向かつておばあちゃんはお葬式の場を通じて、私たちを導いてくださつてているのですよ」と子ども達と話をしておりました。

安樂淨土にいたるひと

五濁惡世にへりては

釈迦牟尼仏のごとくにて

利益衆生はきはもなし

（親鸞聖人『淨土和讃』）

確かに葬儀の時間は長く、いたずらに時間が過ぎていくように感じます。しかし、なかなか阿弥陀さまに心が向かない私達に「ゆっくり時間をとつて、命の学び、そして阿弥陀さまに出あう大切なご縁をもつてください」との生き方からの願いがあることに気がつくと、同じ時間でも尊いものになるのです。亡き人との別れの儀式をしているだけではなく、今度は阿弥陀さまと一緒に常に私たちのためににはたらき続けてくださる仏さまとの新たな出合いの場でもあるのです。



# 宗派の動き

## 「西本願寺展」開催

西本願寺は、浄土真宗本願寺派の本山として多くの信仰を集め、壯麗な近世寺院建築、ならびに諸堂を飾る障壁画をはじめとする絵画、さらに書跡や工芸などの各分野にわたる多数の貴重な文化財を所蔵しています。平成六年には世界文化遺産に登録され、現在、宗祖親鸞聖人像が安置される御影堂（重要文化財）の大修復事業を記念して開催するもので、三月二十五日～五月五日にわたり、「西本願寺展」は、この御影堂平成大修復事業を記念して開催するものです。



東京・上野の東京国立博物館（平成館）において開催されます。西本願寺の所蔵品とゆかりの文化財が一堂に会することとは、東京でははじめてです。「鏡御影」（国宝）や「慕帰絵」（重要文化財）をはじめとする貴重な作品が出品されます。

なかでも「本願寺本三十六人家集」（国宝）は、王朝文化の粋を結集したもので、極めて重要な作品ですが、今回、展示期間を三期に分けて、史上初の全冊公開が予定されています。

# 神奈川組の動き

## ■第三十一回南ブロックお寺の林間学校

毎年、神奈川・静岡・山梨三県から小学校三年から中学三年の子供たちが集まり開催されています。今年は、七月二十八日（月）～三十日（水）、山梨県富士吉田市にて開校されます。詳細は所属寺院までお問い合わせ下さい。

連研（連続研修会）は、門信徒の皆さんに、浄土真宗のみ教えを体系的に学んでいただくことを目的に開催されています。

第六期は、二〇〇〇年十月から始まり、二〇〇一年八月に全十二回の研修が終了いたしました。そして十月に築地本願寺において修了式が行なわれました。

## ■神奈川組の活動

祝賀会  
一月二十五日、横浜メルパルク（横

また、第七期の開催も予定しておりますので、参加をご希望の方は所属寺までお申し込み下さい。

## ■神奈川組佛教婦人会めぐみ会

「めぐみ会」は、組内各寺院の婦人会の連盟です。毎年、総会・研修会を開催し、各婦人会の交流と親睦をはかります。宗門関係の特別養護老人ホーム「あそか園」への清掃奉仕を行なったり、ダーナ（布施）活動として、募金活動を行ない、宗派を通して社会福祉に役立てたりしています。

した。  
「めぐみ会」は、組内各寺院の婦人会の連盟です。毎年、総会・研修会を開催し、各婦人会の交流と親睦をはかります。宗門関係の特別養護老人

## ■神奈川組佛教社年会創立十周年記念

祝賀会  
一月二十五日、横浜メルパルク（横

浜市中区山下町）において、「神奈川組仏教社年会創立十周年記念祝賀会」が一五〇名の参加者により盛大に開催されました。

第一部は記念式典で河野会長の挨拶、来賓の祝辞、歴代会長の表彰等が行われ、宝光寺藤田恭爾師を講師に「遠く宿縁を慶べ」と題して記念講演が行われました。

第二部はバンド演奏も取り入れた祝賀会が行われました。

「創立十周年記念 祝賀会を終えて」  
会長 河野 澄男

そもそもこの十周年行事の話が出たのは、私が会長に就任して二ヶ月が過ぎた頃、山岸前々会長と根本前会長からでした。当初は会場を組内の寺院をお借りして百名位の規模でと思っていたところ、両先輩から「十年の節目だから何処か横浜の港の近くで一五〇人位集めてやりましょう」という話になり、平成十三年八月に私と山岸氏と早島大英住職（宣正寺）でメルパルクに行き会場を決定し、神奈川組の代表の方々とも相談し、日程は一月二十五日（土）としました。初めての大きな行事なので、理事会や研修会の帰りにも喫茶店や焼鳥屋で先輩達や他の理事さんとこまめに会合を重ねました。準備も進み、教務所長を始め教区内の各仏社理事の方へ招待状を出し、また組内においては仏婦・坊守会にも招待状を出しました。準備のことをいろいろと考え出すと、夜も眠れなくなることが何度かありました。

そういうしてたるうちに半年前になり、祝賀会に必要なリボンや腕章、賞状や筒などは理事さん達が手分けして揃えてくれました。ご本尊や花瓶（かひん・花立て）やローソク立てなどは宣正寺よりお借りしました。

私はこの行事が成功するよう毎月一度妻と一緒に山下公園を散歩しながらメルパルクにて、皆さまに厚く御礼申し上げます。

この晴れの日を見ずにお淨土へ還られた二人の先生を忘れてはなりません。前組長・永野弥然師と仏社の講師を長年勤められたの早島鏡正師です。



## 二〇〇一年度慶弔

▼結婚  
四月 三ツ境布教所 寺田崇裕さん結婚  
十一月 寿福寺 多田宗博さん結婚

▼往生  
二月 長念寺前坊守 小林五代子様 九十三歳

平成十五年一月十五日、メルパルクにおいて、石上宗会議長、藤谷教務所長をはじめ教区内よりご来賓の方々をお招きして、また組内寺院の門徒の方々のお力添えをいたいと、皆さまに厚く御礼申し上げます。

この晴れの日を見ずにお淨土へ還られた二人の先生を忘れてはなりません。前組長・永野弥然師と仏社の講師を長年勤められたの早島鏡正師です。

私はこの行事が成功するよう毎月一度妻と一緒に山下公園を散歩しながらメルパルクにて、皆さまに厚く御礼申し上げます。

そのうち半年前になり、祝賀会に必要なリボンや腕章、賞状や筒などは理事さん達が手分けして揃えてくれました。ご本尊や花瓶（かひん・花立て）やローソク立てなどは宣正寺よりお借りしました。

寄り、先方の担当者と細かな点について打ち合わせをしました。ご参加を頂いた方、ご協力下さった方、本当にありがとうございました。

今後もこの神奈川組より法灯を絶やすずに百十数人の会員と共に、お念佛を拠りどころとして聞法に励んでいく所存であります。

# 大谷探検隊と大谷光瑞師

わが国唯一の中央アジア探検隊・大谷探検隊が実現したのは一九〇二年、明治三五年のことです。それから数えて一〇〇年が経ちます。この機会に大谷光瑞師が組織したこの探検隊の意義が再考され始めました。



大谷光瑞師（一八七六～一九四八）は浄土真宗本願寺派第二代門主でした。探検隊以外にも、英才教育のために

学校を設立したり、国際的な伝道の道を開拓し、梵語經典の収集と翻訳を促進させたという業績があります。また、光瑞師は、地理学、地質学、気象学、造詣が深く、こうしたことでも探検隊やその他の事業を展開させる上に非常に役立ったと言われます。

一九世紀のヨーロッパは政治・經濟的に閉塞状態にあり、国策としてアジア・アフリカの奥地にまで探検隊を派遣して天然資源の探索や軍事情報の収集に躍起になっていました。時代が下つて一九世紀後半から二〇世紀になると次第に地理学や考古学の学述調査を目指した探検隊が組織され、中央アジアや中国北西部に送り込まれました。なかでも英のスタンインは、調査発掘による出土品と収集品を大量に本国へ持ち帰り、大きな反響をもたらしました。當時ロンドン遊学者の大谷光瑞師が探検隊を計画したのは、このような機運が熟したなかで、列強が競つて中央アジアに探検隊を送っていた時期でした。

大谷探検隊はヨーロッパ列強の探検隊とは全く異なった目的と性格を帶びていました。かつて玄奘三蔵が仏典を求めて天竺を行を実現した故事ならい、仏蹟を巡りながら仏教を呼びました。またその結果、一九〇二年にハンブルグで開催された第一回国際東洋学者会議で、中央アジア・極東歴史・考古・言語・民族学研究の国際学会の設立が決議されました。当時ロンドン遊学者の大谷光瑞師が探検隊を計画したのは、このような機運が熟したなかで、列強が競つて中央アジアに探検隊を送つていた時期でした。

## 時代背景と探検隊の目的

### 大谷探検隊の成果

東漸の道を明らかにし、仏典などの資料の収集をすることを主要な目的としたのです。また、中央アジアに波及していったイスラムが仏教を圧迫している実態を調査することも探検の目的の一つでした。探検隊を組織した大谷光瑞師は、そうした探検の目的を自ら記しています。

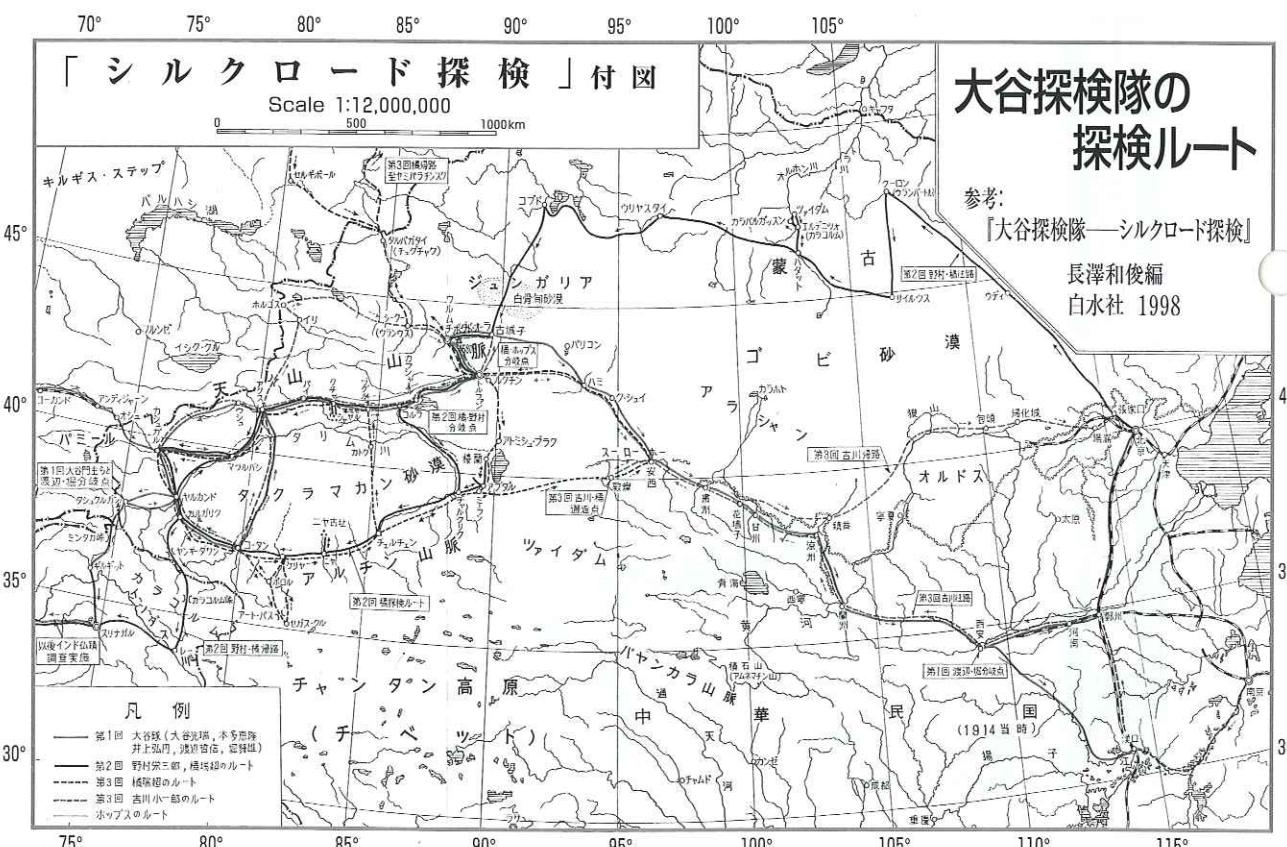
ヨーロッパの列強の探検隊に伍して日本の大谷隊が中央アジアを目指したのは、史上他に類を見ない画期的な大事業でありました。探検という大事業に巨額の資金を投入できたのは、光瑞師が宗門の法主という立場にあつたからと言えます。

大谷探検隊の調査地は、厳密には現在の中国・新疆ウイグル自治区と甘肃省（敦煌）、インド、チベットにまたがります。峻険な天山とパミールの高峰、熱砂のタクラマカン砂漠が横たわる自然環境の極めて過酷な地域でした。

探検は三回にわたって行われました。

第一次は一九〇二～〇四年に大谷光瑞、井上弘円、堀賢雄、本多惠隆、渡辺哲信ら五名が、カシュガル、ヤルカント、タシユクルカン、ギルギット、カシミール、ホータン、クチャ、トルファン、ウルムチなどを調査しました。

第二次は一九〇八～〇九年



# ちょっと一息

昨日では、歯を大事にするために良く噛むことが言われます。が、蓮如上人の言動を書き記した書物の中に出てくるお言葉は、歯について言つたものではありません。

何事も良く噛み締め味わうことが大事で、鶏呑みにする事を教えてはいけないというお言葉を上人が仰つたとされています。

試験や就職、遊びに至るまで、こうすれば良いという手引書、マニュアル本が良く売れている中、書いていない出来事にあります。これまでの模範的な回答がすぐ崩れてしまうという話は絶えません。

淨土真宗では、「み教え」のことを話す時に、「お味わい」と言つきました。読んだり聞いたりした「み教え」を、自分に当てはめて日々を過ごすことを大事にしてきたのです。

食べ物も呑んでしまっては、本来の味は分かりません。良く噛めば、それまで気付かなかつた味にも気付くよう、そしてみ教えとともに日々を過ごしてこそと、蓮如上人は仰りたかったのかも知れません。

「**嚙むとはしるも、呑むとしらすな**」

『蓮如上人御一代記聞書』 第七九条



## 泊まってみたい 温泉宿

新潟県の妙高高原にある赤倉温泉は、四季を通じてのリゾート地として知られる。ここは人気の宿が多くあるが、中でも赤倉ホテルは異色である。

このホテルに入ってまず驚くのは、ロビーに、金色に輝く大きな真宗仏壇があることだ。

ここでは、毎年十一月の一ヶ月間は、各地から念仏をよろこぶ御同朋御同行が集い、「有縁講」という名の法座が営まれる。ご法話を聞き、良質の温泉につかり美味しい料理を頂きながら、身も心も豊かな気分に満たされる。

ホテル経営者の祖母にあたる方が、生前、篤信の念仏者であったことから、親しくしていた御同行がここに集まったのが、この始まりという。

●赤倉ホテル

新潟県中頸城郡妙高高原町赤倉 0255-87-2001  
JR信越線妙高高原駅下車バス15分。車で上信越自動車道妙高高原ICより7分。

に橘瑞超と野村栄三郎が、コブド、古城子、ウルムチ、口砂漠、楼蘭、コルラ、クチャ、ホータン、ヤルカンド、カシュガル、イングなどでした。そして第二次は一九一〇四年に橘瑞超と吉川小一郎の二名が、オムスク、ウルムチ、トルファン、カシュガル、ホータン、敦煌、クチャ、イホーテなど遺跡と遺構を調査しています。

探検隊を派遣したという壮舉は、やがて国内の学会をはじめ、一般にも評価され歓迎されました。中央アジアからの出土品や古文書など一次資料を多く日本に、探検隊は多くの貴重な資料をもたらしたからです。その成果は、古写経を含む仏教関係の出土品収集にはじまり、今

域研究、碑文の拓本や古錢、染織断片、植物標本など博物学的資料約九千点におよびました。その成果が中央アジア史・東西文化交流史の研究の端緒となり、ひいては一般の関心を中央アジアに向けたことが大きな意味を持つようになります。当時、探検隊将来品に基づいて東洋学者たちが、

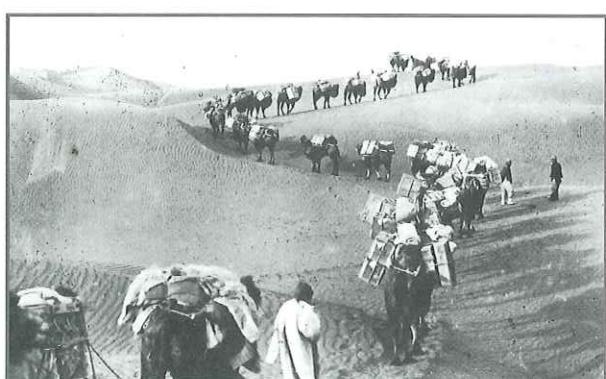
東洋史学、言語学の立場から西域研究の基礎を築き、そして美術研究も含めて、わが国における敦煌学の成立を促しました。さらに、一〇世紀後半には龍谷大学佛教文化研究所の西域文化研究会を中心に仏典の研究が進み一連のすぐれた研究業績が図書として出版されたのでした。

特集

大谷探検隊と大谷光瑞師

さらに、本願寺派は、光瑞師の時代に、探検隊はじめ、莫大な費用の出費で財政は窮迫しました。その責任をとり光瑞師は門主の地位を退くこととなります。

しかし、多数の貴重な資料が外国の探検隊によって中国が外國の探検隊によつて中国織したことと、その研究の成績は評価に値するものと認められました。



探検隊の収集品を積んで進むラクダ隊

日の国際関係論の先駆的な地盤研究、碑文の拓本や古錢、染織断片、植物標本など博物学的資料約九千点におよびました。その成果が中央アジア史・東西文化交流史の研究の端緒となり、ひいては一般の関心を中央アジアに向けたことが大きな意味を持つようになります。当時、探検隊将来品に基づいて東洋学者たちが、

東洋史学、言語学の立場から西域研究の基礎を築き、そして美術研究も含めて、わが国における敦煌学の成立を促しました。さらに、一〇世紀後半には龍谷大学佛教文化研究所の西域文化研究会を中心に仏典の研究が進み一連のすぐれた研究業績が図書として出版されたのでした。

さらに、本願寺派は、光瑞師の時代に、探検隊はじめ、莫大な費用の出費で財政は窮迫しました。その責任をとり光瑞師は門主の地位を退くこととなります。

しかし、多数の貴重な資料が外國の探検隊によつて中国織したことと、その研究の成績は評価に値するものと認められました。

国外に流出したことを考える時、これらの資料に基づく国際的な共同研究を率先して組み立てる知識と経験が十分ではないかと疑われたりしました。また、当時、中央アジアは英國とロシアの政争の場であり、そこで独自の活動を行つたため、スパイではないかと疑われたりしました。

# 「他人の痛みなら百年でも我慢できる」



一

私たち、自分が受けたこの痛みは、しつこく覚えています。相手の顔を見ると、その時の痛みを思い出すなどと云ふことがあります。それが二十年前のことでも昨日のことのように思い出せるのが人間です。

ところが、自分がひとを傷つけたことはきれいに忘れてしまいます。忘れるどころか、

二

ひとを傷つけていることに気がつくことが多いのではなくて、そのことを指摘されると、むしろ面白くありません。自分の行為を正当化しようと考えが常であると思います。真実を見通す事ができない、そのような人間の姿を仏教では「愚痴（おろかさ）」といふのです。

と駆け引きの問題がでてきます。日口交渉然り、日朝交渉然りです。

三

国家間の問題は個人レベルで考へても、愛国心の有無ということが重要な問題としてでできます。この愛国心といふものは、主義主張によって考え方も評価もまちまちですが、洋の東西を問わず、まだ国民の士気高揚を図る手段として為政者に利用されていました。戦争責任を明らかにして他国に謝罪する考え方を、自虐史観だといって批判する方

法 燈 明

びじてすりいないなどといった方が多いのではないでしょうか。ですから、他からそのことを指摘されると、むしろ面白くありません。自分の行為を正当化しようと考えが常であると思います。なれば、「その通り」と比較的簡単にうなづけるのですが、国家というとになりますと簡単にはうなづけなくなります。外交上の問題となります

日々います。国境という壁は、人間のところの壁でもあるのでしょうか。事實を明らかにして「反省謝罪する」とは、なかなかできる事ではありません。最近の北朝鮮とのやりとりを見ていても難しさとともに感じます。

四

そして、これらの事実は、私たち自身の姿を知らしめる鏡でもあります。仏教が明らかにする私たちの心の内面。それを正しく見つめていくことはたやすい事ではありません。私たちのところには、國

境や民族や宗教という壁、男女差や年齢の上下という壁、職業や地位などからくる壁など、あらゆる壁が張りめぐらされています。仏教では、そのようなこだわりを「我執」と言います。この「我執」はしつこく私の心を支配していますが、政治や社会など環境には簡単に影響を受けてしまう弱いものなのです。

「他人の痛みなら百年でも我慢できてしまう」という人間の愚かさを、私たちは肝に銘じておかなければならぬと思います。

# 仏事のこころえ

## 仏壇の向き 私の向き

仏壇の向きを気にする方がおられます。

しかし、本当は、仏壇の向きは、この方角でなければならないというような決まりはありません。どの向きでもよいのです。仏壇は日々の家庭生活の中心となるものですから、要は、家族全員がお参りしやすい点と、粗末な扱いにならない点を考慮して置き場所を決めるのがよいでしょう。

仏壇の中心はご本尊です。浄土真宗ではご本尊には、阿弥陀仏の絵像や木像、あるいは南無阿弥陀仏の名号などが用いられます。いずれも阿弥陀仏のおこころを、私たちの生きるよりどころとするものです。

仏壇は死者のためにあるのではなく、生きている私たちのためにあるものです。それは仏壇の「お莊厳」、すなわち、おかざりにもあらわれています。たとえば、ご本尊阿弥陀如来も、お供えするお花も仏具も、すべて私たちに向かって莊厳されています。このことは、阿弥陀仏の世界というものが、人生に迷い苦悩している私たちに対して開かれていることにほかならないのです。

阿弥陀仏の淨土という世界は、「国土の莊嚴」と、淨土の主である「阿弥陀仏の莊嚴」、そしてそこに集う「菩薩の莊嚴」という三つの莊嚴から成り立っているとされます。しかも、それらはみな「願心莊嚴」といって阿弥陀仏の衆生を救おうとする願いが、形にあらわれたものなのです。

このことからすれば、仏壇や仏具をそろえ、ご本尊を安置しただけではお莊嚴は満足しないのです。つまり、そこに心を向ける信心の行者がいてこそ、はじめてお莊嚴は整うということあります。

その意味では、仏壇をどちらに向けるかでなく、まずもって、この私が仏壇に心を向けていくことが、心得るべき方角といえます。

### ポストエイオス研究会

インターネットのホームページを開設。  
法話や仏教情報などのページです。

<http://www.posteios.com>



### テレホン法話

電話で仏さまのみ教えを!

- 築地本願寺こころの電話  
TEL.03(3541)0282  
TEL.045(662)5629

- 長念寺テレホン法話  
TEL 044(911)8282

### ビハーラ電話相談

—老いの悩み、病の苦しみに—

相談日▶毎週月・金／午後2時～5時

浄土真宗東京ビハーラ(築地本願寺内)

TEL.03(5565)3418

## お寺を訪ねて(15)

東急東横線東白楽駅から徒歩で約10分。善龍寺は住宅に囲まれ、近くには箱根駅伝で有名な神奈川大学があります。お寺の境内脇道は学生さんたちの通学路にもなっています。この地名は斎藤分町といい、善龍寺のご住職は斎藤幸紹師です。古くからの住民で斎藤という姓の方は他になく、この辺りはもともと善龍寺の知行地で、その住職であった斎藤という名を取って、現在の地名にしたと推察されます。

善龍寺は、天長年間(830年代)の開基といわれ、初めは真言宗でしたが、建長5年(1254年)第42代眞量師のときに、浄土真宗に改められました。浄土真宗に改宗してから数えて、現住職は28代目にあたります。

本堂は、江戸時代に数回焼失したとの記録があり、明治初期に建てられた本堂は、大正12年9月1日の関東大震災で損傷しました。昭和16年に新しく再建されましたが、昭和20年5月29日の大空襲に再び焼失しました。現在の本堂は昭和46年に鉄筋コンクリート建で再建され、また平成4年には「善龍寺会館」も完成し、境内の整備がなされました。現在の本堂は新様式で、椅子席でのお参りができ、「お参りがしやすい」とご門徒さんに大変好評だそうです。

毎月第1土曜日『定例法座』、6月第1土曜日『永代経法要』、11月第1土曜日『報恩講法要』が行われ、大勢の方のご参拝があります。各法要にはどなたでも自由に参加することができます。また、3ヶ月に1度、古くからの斎藤分のご門徒が集い『お寄り講』を勤めるという習慣もあるそうです。

平成7年にはかねてからご住職の念願であった婦人会も結成され、日帰り旅行や研修会といった活動がされています。

「地域に根ざした寺院として、お念佛の輪をひろめていきたい」とご住職は抱負を語っておられました。



— 神奈川の地に脈々と  
お急仏を伝えてきた歴史あるお寺 —

ぜんりゅうじ  
**宿縁山善龍寺**

横浜市神奈川区斎藤分町29-51

お手々のしわとしわをあわせて…しあわせ

日本の美・日本の心をお届けします。

# お仏壇・墓石 はせがわ



業界初の上場企業  
関東地区90店舗・全国で137店舗

～お仏壇、お仏具等～  
**特別価格  
大セール中!!**

※セール商品は除きます。  
墓石・霊園も  
好評お取り扱いしております。

しあわせ少女ゆうかちゃん

## 横浜・川崎地区の店舗ご案内

金沢文庫店	横浜市金沢区谷津町352-7 オオサワヒルズ1F	0120-876-768
上大岡店	横浜市港南区日野5-1-25	0120-767-628
戸塚店	横浜市戸塚区柏尾町440-1	0120-767-627
今宿店	横浜市旭区今宿東町1621	0120-767-658
新杉田店	横浜市磯子区杉田1-2-3	0120-484-883
長津田店	横浜市緑区いぶき野3-1	0120-744-194
鶴見駒岡店	横浜市鶴見区駒岡町4-23-4	0120-176-761
日吉店	横浜市港北区日吉3-4-8 リバーサイド日吉	0120-639-010
鷺沼店	川崎市宮前区東有馬1-1-19	0120-876-768
川崎店	川崎市川崎区東田町2-1	0120-767-577
町田森野店	町田市旭町1-8-20	0120-768-201
向ヶ丘遊園店	川崎市多摩区登戸1763 ライフガーデン向ヶ丘	0120-594-345

営業時間／午前10時～午後7時 日曜・祝日も営業いたしております。



お仏壇・墓石  
はせがわ

昭和59年 京都西本願寺阿弥陀堂  
昭和大修復事業  
昭和62年 京都清水寺開山堂御厨子  
三重塔堂内修復事業  
昭和63年 福岡証券取引所  
業界初の株式上場  
平成6年 大阪証券取引所第2部  
株式上場

製造部  
(株)はせがわ美術工芸  
(国宝美術品、寺院神社)  
(株)はせがわ仏壇工房明日香工場  
(純金箔仏壇)  
(株)はせがわ仏壇工房大川工場  
(木本仏壇)

# わたしたちのお寺です

浄土真宗本願寺派 神奈川組

えんこうじ 円光寺	〒210-0814 川崎市川崎区台町4-21 石川 康承 ☎ 044-266-2677
ほうえんじ 宝円寺	〒210-0838 川崎市川崎区境町5-10 飯田 琢亮 ☎ 044-222-3941
こうとくじ 光徳寺	〒210-0848 川崎市川崎区京町1-14-3 林 信順 ☎ 044-333-3997
しょうらくじ 正樂寺	〒212-0016 川崎市幸区南幸町2-49 佐々木俊博 ☎ 044-522-1961
こうがんじ 高元寺	〒211-0051 川崎市中原区宮内4-3-12 宮本 義孝 ☎ 044-777-6544
ちょうねんじ 長念寺	〒214-0014 川崎市多摩区登戸1416 小林 泰善 ☎ 044-911-2549
じょうねんじ 常念寺	〒215-0033 川崎市麻生区栗木203 古市 道仁 ☎ 044-988-0205
じょうしょうじ 净照寺	〒216-0004 川崎市宮前区鷺沼2-5-7 加藤 孝充 ☎ 044-855-2780
ぜんりゅうじ 善龍寺	〒221-0811 横浜市神奈川区斎藤町29-51 斎藤 幸紹 ☎ 045-491-9431
ぜんきょうじ 善教寺	〒223-0057 横浜市港北区新羽町2396 平等 勝尊 ☎ 045-541-7684
きょうがくじ 教覚寺	〒223-0057 横浜市港北区新羽町2395 平等 真証 ☎ 045-531-5050
こうりんじ 光輪寺	〒223-0064 横浜市港北区下田町3-2-9 村石 恵照 ☎ 045-561-8671
とうぜんじ 東善寺	〒224-0001 横浜市都筑区中川7-18-29 長谷尾芳雄 ☎ 045-911-3509
ちょうとくじ 長徳寺	〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西3-9-1 平塚 大乘 ☎ 045-911-7351
じゅふくじ 寿福寺	〒224-0033 横浜市都筑区茅ヶ崎東1-7-1 多田 龍空 ☎ 045-942-3721

## かながわそ 「神奈川組」とは…

私たちの教団（浄土真宗本願寺派）は、全国に一万余りの寺院を擁し教団独自の地区割をしています。その一番小さな単位を「組」といいます。神奈川組は、川崎市と横浜市中部と北部の寺院によって構成されています。

## 浄土真宗本願寺派東京教区神奈川組

組長／林 信順	副組長／斎藤 幸紹	相談員／早島 大英
教区会議員／曾我 求真 金子 貞夫（門徒）	副組長／小林 泰善	相談員補佐／藤江 義昭 古市 道仁

# 一茶の俳句から

還暦を迎えた元旦の所感として、六十一歳の句があります。

## 春立つや愚の上に又愚にかへる

この句は大変有名な句で、専門家の先生方が取り上げていらっしゃいます。「愚の上に又愚にかへる」というのは、相当な句ですね。「自分は愚かものだよ」といつ良寛は、天台宗を開いた伝教大師最澄も「愚が中の極愚」ということをおっしゃっています。良寛であり「大愚良寛」とおっしゃるし、親鸞であり「愚禿親鸞」と名乗つておられる。ですから、「愚」という表現ができる人はみな偉い人なんですね。ところが、人は往往にして「俺は賢い、賢者である」と誇示しがちです。なるべく「私は愚か者で至らないものです」と、謙虚なほうが多いんじゃないでしょうか。間違いないと思います。

早島鏡正著『念佛一茶』  
四季社刊より



浄土真宗本願寺派（西本願寺）

横浜市都筑区勝田町1277

最乘寺

〒224-0034 電話045-941-3541

組報かながわ No.16

■発行日 2003年3月15日  
(毎年1回3月発行)

■編集発行 浄土真宗本願寺派  
東京教区神奈川組  
基幹運動推進委員会

〒210-0848 川崎市川崎区京町1-14-3 光徳寺内